

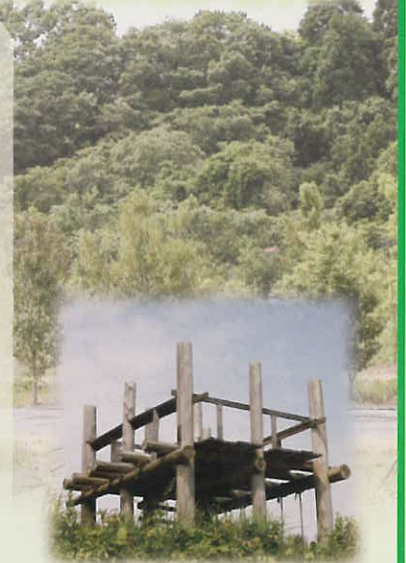
みんなでエコロジー 41 緑の環・協議会

森の復元活動を通じて、子どもに自然体験を!

砂漠から森へ

そこは苗木と幼木の森です。まだまだ幼いか若い木々たち(高くても人の背丈)の間には散策路が通り、スイスイとメダカが泳ぐ雨水池もあります。昭和の森に程近い、緑区小山町「里山の森」。「緑の環・協議会」の活動拠点には、多くの人たちの「森を復元したい」との思いがカタチとして表れてきています。

植樹活動が始まったのは6年前のこと。産業廃棄物処分場の予定地だったこの土地を計画反対運動の末、地元の板倉大椎土地改良区が買い取り、水源涵養林への復元を目指して土地改良区、小山町、あすみが丘周辺住民が協力して毎月1回森の手入れ活動を始めました。表土をすべて削られて養分の全くない砂漠状態の土地を、緑が生い茂る森へと蘇らせるという、極めて困難なテーマを抱えてのスタートでした。しかし多数の協力支援や植生調査のもと、飛来して芽生えた木の赤ちゃんが見つかることその数100本。自然の回復力に驚くとともに森の復元への希望が見えてきたことにより、会の活動は加速していきます。



苗木と一緒に子どもも成長



2008年3月、『G20 ちば 2008 国際会議』記念事業のプレ企画として開催された植樹祭では、多くの寄付のもと約600本の苗木が、子どもを含む地元の住民やボランティアの方々の手により植樹されました。参加者数はなんと152人。多くの人の想いを込めた「森の復元」へのスタートです。

2009年の秋には地元の小学生を巻き込んでのイベント『千の苗プロジェクト』を開催。拾ったどんぐりを各家庭に持ち帰って苗を育て、3年後に森に戻すという一大プロジェクトです。また肥料用に集めた落ち葉を利用した『落ち葉のプール』や、丸太で作った『ツリーハウス』など、子どもが自然の中でのびのび遊べる環境作りにも着手しました。

「子どもが自分で遊びを見つけ工夫する。殆ど自然しかない広いこの場所が子ども達にとっても最高なんです」、金井理事長は言います。森づくりや自然観察会を通じて、生き物の生死や自然の成り立ちを知る、その上での遊び方が考えられる場所を、と。その中心になっているのが、森もりあそび隊とプレーパーク(冒険遊び場)での活動です。苗木の手入れ作業と森もりあそび隊との両輪の活動が、里山へ人を呼び寄せ、森に命を与える結果に繋がっています。

グリーンウェイブと被爆アオギリ二世

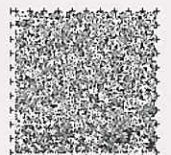
国際生物多様性年である2010年から同会はグリーンウェイブへと参加。グリーンウェイブとは、国連が定めた国際生物多様性の日に、世界各地で植樹・水やりを行うという取り組みです。現地時間10時で行うことで、時差が地球を一周する緑の波(ウェイブ)を作り出すのをイメージしているそうです。今年も5月に開催され8本の苗木が植えられましたが、その中には3本の被爆アオギリ二世も含まれ



ています(表紙写真)。広島原爆から生き残ったアオギリ、そこから生まれた奇跡の苗木です。このアオギリ二世は、世界各国へと寄贈され、この「里山の森」にも毎年植えられているとのこと。森の復元活動のシンボリック行事になっているそうです。こうした復元活動により現在は谷津田保全区域に指定、生物多様性に配慮した森づくりが進められています。

同会ではフェイスブックも開設。森の復元活動に興味を持たれた方は、是非アクセスを。

■緑の環・協議会 理事長 金井さん
TEL 043-294-6885 (事務局/星野さん)
ホームページ <http://www.g-cycle.org/>
フェイスブック <http://facebook.co/gc.for.forest.recovery>
メール er8m-hsn@asahi-net.or.jp



音声コード
(活字文字読み上げ装置で
音声に変換できます。)